

与信リスク なるほど (3) 浅野 瞳

1 管理する部署	2 ルール化	3 自社格付け	4 与信限度額の設定	5 情報管理
与信管理の役割を担う部署は会社の規模や業態によって異なります。大企業であればリスクマネジメントを専門とす	実態をよく把握しないまま約定規則に収集したデータだけで、得意先企業を評価しないようにしなければなりません。	接部門は、営業など直接担当から間接部門でも、営業担当の直接の情報を積極的に活用することが大切です。	従業員が間接部門でも、営業担当から得意先企業を評価する際は、得意先からどうかするか情報をキャッチするか外部情報をどこまで活用するか	その意味で管理する部
①得意先からどうかするか情報をキャッチするか	②得意先の基礎的な情報の他に、前回(5月11日号)紹介した「倒産企業の兆候」が見られない	③得意先に対する与信の評価基準	④情報の更新時期	⑤誰が最終的に決済し責任を取るのか
得意先の信用度を外部の調査機関から得ています。こうした調査を	得意先の経営状態は、だ	得意先の経営状態は、だ	得意先の経営状態は、だ	得意先の経営状態は、だ
新規取引のときはもちろん、既存得意先について	得意先の経営状態は、だ	得意先の経営状態は、だ	得意先の経営状態は、だ	得意先の経営状態は、だ

〈表1〉与信調査報告書(記入例)

基礎情報	得意先名	A B C 無線株式会社		報告日	○○○○年○月○日	
		得意先コード	報告者		○○ ○○	
概評	年商	12,500,000千円	従業員数	130名		
	経常利益	625,000千円	現在与信枠	売掛額10,000千円		
	販売基盤はどうか?	○	販売管理はどうか?	△		
	社内の雰囲気はどうか?	○	仕入基盤はどうか?	○		
	社外の評判はどうか?	○	在庫管理はどうか?	×		
	不良在庫はどうか?	△	倉庫・後方管理はどうか?	×		
	事務管理はどうか?	○	販売店の評判はどうか?	△		
	経営者の健康状態はどうか?	○	他社製品の動向はどうか?	○		
	従業員の定着率はどうか?	×	新規開拓・企画はどうか?	○		
	主力商品はどうか?	○	事業計画性はあるか?	△		
	不動産に変化はないか?	○	得意先に問題点はないか?	○		
	事業所の統廃合はどうか?	○	組織変更(リストラ)はないか?	△		
シエア	販売先シェア	1位 Gsデンキ 2位 カワダ電機 3位 ベター電機	24% 4位 角井 21 5位 満趣会 14 6位 ミスマックス	11% 8 4		
	仕入先シェア	1位 松上電工 条件 30日現金 2位 田立家電 条件 30日手形 3位 シャープ 条件 30日現金	28% 4位 四菱電機 条件 60日現金 18 5位 トリプルバード 条件 60日現金 15 自社 条件 12000万円 2% 60日現金	14% 8 8 2%		
得意先の急変事項	幹部の退職	出向者入り	他社焦付発生	取引銀行変更	仕入条件変更	支払条件変更
	手形異変	経営者入院	災害事故発生	株主変更	風評被害発生	訴訟発生
	詳細(時期・内容)	2007年2月に物流センター火災も被害最小限で現状取引に問題なし。				
評価理由	通販の満趣会に定番商品が12アイテムあり、安定した売上を維持。 鈴木バイヤーによると、満趣会への売上拡大戦略を取る方針とのことで、 調理家電の定番化を進める意味でも与信枠拡大を望む。			評価(A~D)	B	

営業戦略の重要な5項目

与信管理に不可欠な5項目

格付と与信限度額を連動

前回(5月11日号)では、倒産する企業の兆候について解説しました。今回は、実際に企業内で与信管理を進める上で必要な仕組みや方法について解説したいと思います。

与信管理を進める上で考えなくてはならないポイントは次の5つです。

- 1 管理する部署
- 2 ルール化
- 3 自社格付け
- 4 与信限度額の設定
- 5 情報管理

【管理する部署】

が総務や経理といった間で、しかも支払いサイクルが長いのは大変危険なことです。

【ルール化】

【与信管理に限りません】

【与信限度額の設定】

支払いサイトの交渉に有利

では、次に具体的な与信管理の方法について見ていきましょう。

まずは、得意先の情報を把握する場合や、営業戦略上重要な情報を管理することになりますから、企業内の情報を管理するセグメントとの連動が欠かせません。

販売後の翌月末に締め切りと一致して、翌月末60日の手数料で格付けを行う必要があります。

販売後60日以内に支払いをして、翌月末60日の手数料で格付けとして評価できます。



あさの まこと
(株)フォーサイツコンサルティング代表取締役社長

1963年生まれ。丸山商品本部からブルデンシャル生命を経て経営コンサルタントとして独立。リスクマネジメントを中心の大手企業、中

小企業、医療機関、福祉施設、行政などを対象にコンサルティング活動を行っている。

主な著書『得意先管理』(日本実業出版社)、『リスクマネジメント協会理事』。

理しなければ与信管理にはなりません。

逆に、与信格付けの高い企業に対しては取引額を大きくする戦略を練ることが求められます。

参考することは大きいに結構なことですが、外

部の調査機関の情報だけ

で与信管理を行うのは危

険です。

また、逆に営業担当者

が成績を上げるために

査定の点数だけを見て、

与信調査したことなど

は与信管理とは言えませ

ん。

自社が調査した情報

と、外部からの情報のズ

レと一致している点を確

認し、あくまで自社の判

断で格付けを行う必要が

あります。

【与信限度額の設定】

自社で格付けを行った

結果を、実際の取引に反

映させる必要がありま

す。格付けの低い企業に

対して多くの売掛金が

あつて、しかも支払いサイ

クルが長いのは大変危険

なことです。

得意先の機密情報を把

握する場合や、営業戦略

一環として行う必要があ

ります。

得意先の機密情報を把

握することですが、支払いサイ

クルとの関係をよく考

えます。

得意先の機密情報を把

握することになりますから、企

業内の情報を管理するセ

グションとの連動が欠か

せません。

得意先の機密情報を把

握することになりますから、企

業内の情報を管理するセ

グションとの連動が欠か

せません。

得意先の機密情報を把

握することになりますから、企

業内の情報を管理するセ

グションとの連動が欠か

せません。

得意先の機密情報を把

